

< もくじ >	
1. 板倉真琴監督「ひとと原発～失われたふるさと」上映・対談会のお知らせ（再掲）	1
2. いきがい・助け合いサミット in 神奈川（分科会企画）（再掲）	1
3. 2021年度総会・大会のご報告	2
4. 研究会からのお知らせ	5
5. 研究会からの概要報告	6
6. 事務局からのお願い	7

## 1. 板倉真琴監督「ひとと原発～失われたふるさと」上映・対談会のお知らせ（再掲）

福島県浪江町は、2011年3月11日の東日本大震災によって引き起こされた福島第一原発事故の影響で、ほぼ全町民が全国に避難を余儀なくされたばかりでなく、請戸海岸地域では津波被災者の一部が消防団への避難指示のために救出できなかったことが伝えられ、多くの野生動物や放置された家畜やペットが、放射能除染が行われるまでの間、市街地をさまよひ人のいない家に棲みついたり息絶えたりしました。避難指示解除後、帰還を選択した人、身近な人を失いふるさとに帰還することをあきらめた人、近隣市町村で暮らす人、被爆した牛を集めて牧場で飼育し続ける人など、さまざまに選択されたそれぞれの生き方を見つめ、ふるさとをある日突然理不尽に奪われた人々の語りを丹念に収録した板倉真琴監督のドキュメンタリー映画が完成しました。

これまでの大会や講座に参加された皆様から頂いた義援金の一部も、この映画の完成を後押ししました。ご協力をいただいた皆様をはじめ多くの皆様に見ていただきたく、ご案内いたします。

1) 日 時：2021年8月8日（日） 14：00～17：00

2) 発信会場：労働者協同組合連合会会議室

3) 映画上映：8月7日（土）および8日（日）のみYouTubeによる視聴

4) 対談テーマ：ひとにとっての本当の復興とは

板倉真琴（脚本家、映画監督）

伊藤まり（NPO 法人 WE21 ジャパン青葉代表）

原田雄一（浪江町住民、NPO 法人新町なみえ代表、元浪江商工会会長）

長田攻一（理事、事務局長、「災害と地域社会」研究会）

松村 治（会員、早稲田大学現代社会と危機管理研究所招聘研究員）

コメンテーター：野坂 真（会員、早稲田大学）

5) オンライン参加：最大90名

6) 参加費：無料

7) 参加申し込み方法：詳細については添付のチラシをご参照ください。申込者には上映のURLとZoomの招待URLをお送りします。

## 2. いきがい・助け合いサミット in 神奈川（分科会企画）（再掲）

公益財団法人さわやか福祉財団が主催する「いきがい・助け合いサミット in 神奈川 共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～」でシニア社会学会が分科会を企画します。

1) 開催日：2021年9月1日（水）～2日（木）

2) 会 場：パシフィコ横浜

- 3) 会場参加：1,500名、オンライン視聴：3,500名
- 4) 参加費：資料代として2,000円（会場参加、オンライン視聴共に参加費を兼ねたお1人ずつの金額です）
- 5) シニア社会学会企画の分科会  
 日時：9月2日（木） 12：45～14：45 第3部パネル 分科会27  
 テーマ：「心身機能が低下しても、持てる能力を生かして高齢者が社会参加する方法とは」  
 進行役：澤岡詩野（当学会理事・ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）  
 アドバイザー：袖井孝子（当学会会長）  
 登壇者：  
 ★中林美奈子（富山大学歩行圏コミュニティ研究会代表）  
 ★前田隆行（DAYS BLG!代表）  
 ★椎根 溪（ウェルケアヒルズ馬事公苑介護主任）
- 6) 参加申込みなど詳細は さわやか福祉財団の「いきがい・助け合いサミット」ページをご覧ください。  
<https://www.sawayakazaidan.or.jp/summit/osaka/kanagawa2021/>

### **3. 2021年度総会・大会のご報告**

#### **(1) 2021年度総会について**

2021年度の定時総会は昨年同様最小規模の開催とし、大多数の会員は会場に来場することなく、事前に委任状の提出あるいは書面（郵送または電磁式）による議決権行使をお願いしました。委任状を提出、または議決権行使をしていただいた皆様にはご協力ありがとうございました。

その結果を踏まえ、2021年6月27日（日）13：00、労働者協同組合連合会C会議室において、定時総会を開催しました。

- 1) 議決権のある社員総数：154名
- 2) 総社員の議決権の数：154個
- 3) 議決権行使社員数（委任状による者を含む。）：83名
- 4) 出席理事：袖井孝子（議長兼議事録作成者）、長田攻一、森やす子

以上のとおり社員の委任状および書面決議をもって、定款の規定により、理事袖井孝子議長により、本定時総会は適法に成立したことを確認。直ちに第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案、第5号議案の議決について、全会一致での賛成確認を行い議事終了としました。

#### **(2) 2021年度第20回大会「高齢者のICT活用～コロナ禍を超えて～」報告**

今年度の大会は、昨年度の方法とは異なり、多くの参加者にオンラインで同時に参加していただきました。オンラインの参加者は基調講演とパネルディスカッション、コメンテーターのコメントを聴き、拠点会場に集合したパネリストやコメンテーターの対面コミュニケーションの雰囲気を感じながら、その後6つのグループに分かれて自らの体験を少人数で話し合う「グループ討議」を行いました。遠方に住む方にもオンラインで気軽にご参加いただいたばかりでなく、参加者同士が話し合える「グループ討論」はご好評をいただきました。

- 1) 開催日時：2021年6月27日（日） 14：00～16：30
- 2) 開催拠点：労働者協同組合連合会会議室（司会者、基調講演者、パネリスト、コメンテーター、会場サポーターのみが集合）
- 3) 参加方法：Zoomによるオンライン参加
- 4) 基調講演：澤岡詩野（理事、ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）
- 5) パネルディスカッション参加者：  
 司会：袖井孝子（会長、お茶の水女子大学名誉教授）  
 パネリスト  
 ★片山嗣規（なかの生涯学習大学「つなげるサポーター・チームICT」）

- ★大津駿介（なかの生涯学習大学「つなげるサポーター・チームICT」）
- ★橋本みどり（なかの生涯学習大学「つなげるサポーター・チームICT」）
- ★柴田 守（会員、ナルク市川、社会情報研究会メンバー）

コメンテーター

- ★荒井浩道（理事、運営委員、駒澤大学教授）

総合司会：長田攻一（理事、事務局長）

ブレイクアウトルーム運営サポーター：八巻睦子、森やす子（社会情報研究会）

会場機器操作：坂林哲雄（理事、労働者協同組合連合会理事）

写真撮影： 鈴木昭男（運営委員、事務局長）

大会テーマは「高齢者のICT活用～コロナ禍を超えて～」です。袖井会長からの今回大会のご挨拶の後、基調講演者、澤岡詩野さん（ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）から、現在のコロナ禍での高齢者の状況について、具体例を挙げてわかりやすく説明されました。コロナ禍中で、高齢者の方々がもっとも悩んでいることは、これまで大事にしていることができなくなり人とのつながりが壊れていくことでした。高齢者の対応は、悲観的になる人や我慢を強いられる人、何とかできることを探して少しでも前向きに対応する人などさまざまです。大切にしてきたことを失うまいと困難に前向きに立ち向かう人たちに視点を据えてみると、何とかつながりを維持するための手段を探そうと努力し、その手段の一つとして ICT 技術を使うということに期待をかけた人もいたことでした。もちろん、そのような手段に拒否反応を示す人もいますし、電話や手紙など既存の手段に頼る人もいます。ICT 技術の採用は様々な手段の一つであることを踏まえた上で、大切にしてきたことを失わないために「ICT 技術に置き換えてみる」という実践をした人に注目して、その「置き換え」の効果や新たに発見できた人の事例について考察した結果を報告されました。



個人が大切にしてきたことには、地域やコミュニティにとっても大切なことが含まれており、これを失うことに危機感をもって ICT の活用を始めた人がいます。そしてその努力から分かったことは、すべての人が同じ能力を持っていなくても、できる人がそれを使える環境をつくっていただけで、できない人もそれを利用する可能性が開けるということでした。そして人とつながる手段を複数持てることは、豊かな齢の取り方でもあること、それが、コロナ禍での周囲の人々の新たな生活様式的环境を整えていくことにつながり、その新しい環境への適応を可能にしていきます。それを受け入れない人がいることは事実ですが、そのような人々にも「失敗を楽しむ」、「皆で場づくり」の余裕を持って臨むことで、少しでも仲間を増やしていけるとよいのではないかと締めくくりました。



澤岡さんの基調講演を受けて、ここからは袖井会長の司会によるパネルディスカッションに入ります。袖井会長自身も澤岡さんも講師を務める「なかの生涯学習大学」では、コロナ禍でほかの自治体での市民講座が中止になっている中で、受講者のボランティアがチームをつくってオンライン講座をスタートさせたことを紹介され、本日は、それを担っている「つなげるサポーター・チームICT」の代表者3名（片山嗣規さん、橋本みどりさん、大津駿介さん）が参加されているという説明がありました。またもう一人、「日本アクティブライフクラブ」（通称ナルク）の市川で活動されている柴田守さんが、高齢になってからスマホの活用を始められたということでその経緯をお話いただくために、パネリストとして参加されているというご紹介がありました。



会場に来られた片山嗣規さんが、「なかの生涯学習大学」は、「共に学び」「地域のために稼働しよう」という意欲を持った人の集まりで、コロナ禍で通常の授業ができなくなってから何とか ICT を使って授業を再開しようと「つなげるサポーター・チーム ICT」を中心に初心者相談会を開催、個別の相談に乗ってオンライン講座に参加できる仲間を増やせたとともに、できない人も対面での受講を併用することで講座再開を実現した経緯を、スライドを使って紹介されました。や

はり心理的・経済的ハードルもあり、できる人とできない人の 2 極化が生じたことなど課題もあるということで、コロナ禍を 2 年経過して多くの議論を重ねて今に至っているとのこと。



同じく会場に来られた橋本みどりさんは、同チームの「お笑い担当」として ICT を「楽しく」活用するための工夫をされており、ご自身が牛乳パックを使ってオンライン画面に映る自分の姿を「仮装する」工夫を実践されている様子を紹介されました。また、大津駿介さんはオンライン参加で、サロンに来る人達は「つながりたい」という気持ちが根底にあることを再度強調され、サポートするご自身の役割をエンターテイメント担当として紹介され、クイズや合唱、大人相談室などそれぞれの特技を生かしたエンターテイメントの工夫例を紹介されました。



柴田さんは、ナルク市川で進めている事業の紹介をされました。ICT の活用を模索する中でコロナの問題が起こり参加者の意識も変わってきたこと、シニア社会学会の社会情報研究会への参加で逐次報告するなかでスマホに注目、使うようになったこと、それを学ぶにあたって大学生の指導を受けることで成果が上がった例を聞き、ナルク市川で千葉商科大学の学生による講座を開くことが決まった段階であるといいます。マンツーマンでの若い学生の教え方のうまさ感動したことを話され、ICT の社会（とくに高齢者）の受容には、若い世代のかかわりによって多世代型の支援を実現することが重要であることを強調されました。



会場で参加されたコメンテーターの荒井浩道さん（駒澤大学教授）は、なかの生涯学習大学やナルク市川の例について、このような実践がなされている話を興味深く聞いたとし、コロナ禍において ICT は令和の回覧板、あるいは地域のクロ電話にどこまで置き換わることができるのか、というテーマを思いついたといいます。つながりが途絶えた人と繋がれるようになったというメリットがたしかにあるが、どこまで対面に置き換わることができるのか課題になっており、さまざまな工夫をしてきてコロナ 1 年目と 2 年目での違いも見えてきたといいます。大学での学生や教員同士との関係の変化についての経験も踏まえて、最初は多くの方が ICT を取り入れることに興味を持って取り組んだが 2 年目になるとよりじっくり問題点を見据えるようになった。対面とは異なる面が明らかになってきたこと、またどうしても受け入れない人、ネットワークに入れない人もおり、文化や価値観の違い、ジェンダー、年齢、ツールの違いなどにより、新たな格差が生み出されていると感じることです。オンラインでは情報のやり取りだけならよいか、名刺交換や緩い関係でのやり取り、また、表情や身振りでの微妙な変化を読み取ることは難しくなること、出かけなくなることのデメリットがある。しかし、対面にも様々な情報がやり取りされる中で注意が散漫になるということや、満員電車人って通うことなどのデメリットも浮き彫りになったとし、ICT が令和の回覧板やクロ電話にどこまで替わりうるのか、それぞれの利点と欠点を勘案して検討が必要ではないかと述べられました。

ここでわずかの休憩時間を挟んで、「グループ討論」に入りました。オンラインで参加された方々 40 名を、会場で八巻睦子さんと森やす子さんが、6 つのグループに分け、それぞれのグループに、社会情報研究会およびライブプロデュース研究会のメンバー 6 名が各グループのリーダーとして参加し、注意事項と進め方について八巻さんから説明があり、早速各グループ内での議論が始まりました。会場参加者は、オンラインのマイクを切って会場での議論を行いました。約 20 分の議論の結果は、各リーダーから報告されました。

各グループの議論のテーマは、ICT を利用する人と全く利用しない人の 2 極化がどうしても避けられないという問題を取り上げたところが多いようです。また、若い人の教授の有効性、楽しい、入りやすい雰囲気づくりの大切さなど、格差改善のための食うふうについての話で議論が進んだところや、システムの変化の速さについていけない、取り残される不安、極度の緊張を強いられるなど、なじみにくい理由、ICT に頼ることへの限界などについての議論もあったようです。また、「なかの生

涯学習大学」の取り組みをうらやましい、港区コミュニティカレッジの先駆的な取り組みの紹介、さらにはシニア社会学会でサポート活動ができないかなどの提案もあったという報告がありました。

最後に、荒井さんから、今回の大会では、ICTの活用をめぐってさまざまな格差が生じること、コロナ禍2年目になり、改めて対面の大切さやオンラインのさまざまなメリット、デメリットを理解することになったこと、さらに会場に数名が集まり、それにオンラインで参加する人が議論に加わり、グループに分かれて議論する方法が併用されており、新たな経験ができたことも一つの成果ではないかとの発言もありました。また、澤岡さんからも、オンライン、対面、それらの組み合わせについてさまざまな工夫と経験を経て、コロナ禍2年目になり余裕が出てきた面もあるので、それぞれのよい点弱い点を理解した上で、人とのより豊かなつながりを築いていく可能性を積極的に考える必要もあるという感想を述べられました。



今回もオンライン参加の難しい方もおられたことは心残りではありますが、小規模ながらその併用効果も実感できたことで、会場での規模のより大きい「対面」参加を併用するなどの工夫によって、今後の活動様式に新たな可能性を広げる試みともなりました。今回はご紹介できませんが、大会アンケートでも多くの貴重なご意見をいただき、大会開催や講座開設の改善に役立てたいと思います。

(長田記)

#### 4. 研究会からのお知らせ

##### (1) 第22回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年7月21日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 概 要：市川の学生ボランティアさんへのインタビュー実施  
※ 参加ご希望の場合は、森 moriyasu@led.co.jp までご連絡ください。

##### (2) 第12回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年7月24日(金) 18:30~20:00
- 2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他
- 4) テーマ：認知症

びしょうざ

劇団「B笑座」を始めます。「最もへたな劇団」です。  
認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。劇団員も募集しています。緊急事態宣言中ですがオリ・パラに負けずにやります。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

##### (3) 第23回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年7月27日(火曜日) 17:00~19:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：参考サイトを参照し、「今、読んでみたい本」をそれぞれ紹介する。

【参考サイト】

1. コロナ時代の読書 ~私たちは何を読むべきか~  
<https://kadobun.jp/serialstory/car/>
2. HIU 公式書評ブログ  
<https://bookrev.horiemon.com/entry/2021/04/17/220000>

※ 参加ご希望の場合は、前日までに中村 nakamurayoshiko6@gmail.com までご連絡ください。

#### (4) 第132回 社会保障研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年7月28日(水) 18:00~20:00
  - 2) 報告者：金 貞任(東京福祉大学教授)
  - 3) テーマ：「韓国の介護保険制度の動向と介護事業所の新型コロナ対策」
  - 4) Zoom で開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。  
[阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) [小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853  
なお、8月はお休みです。

### 5. 各研究会の概要報告

#### (1) 第21回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年6月23日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：
  - ① 大会ブレイクアウトルームの手順等打ち合わせ
    - ・各グループの司会者は参加者は「Zoom で表示される名前」 “さん” でお呼びする。
    - ・ブレイクアウトルーム内ではカメラ・マイクをONにする。
    - ・ブレイクアウトルームから戻った後、「各グループによる報告」の際は、司会者の報告の際は、グループメンバーはカメラ・マイクをONする。
    - ・各グループの人数に比して、討論時間が20分と短いので、グループメンバーには氏名と感想を述べていただくにとどめる。自己紹介は省く。
  - ② 千葉商科大学学生ボランティアさんへのインタビュー項目の検討  
7月21日(水)の研究会時、15:00~17:00の中の最初の1時間程度。Zoom で実施。  
◆インタビュー内容
    - ・ナルク市川での2回の講演内容と重複などあるかもしれないので、八巻さんから直接講演要旨の送付を依頼。その後、研究会メンバーから寄せられたインタビュー項目と調整整理する。
    - ・千葉商大のボランティアのリーダーで、先輩からナルクとのことを引き継いだ。そのため、まだスマホ同好会の講師はやっていない。インタビュー内容も実際にあわせることが必要。「学生ボランティアと柴田さんセット」と考えて、気軽に話すという対応態度が相応しい。
    - ・阿波野さんインタビューは全体1時間(15時~16時)程度を予定。  
前半に自由な説明発言「活動の経緯、内容、計画など」で30分、その後「質問インタビュー」で30分と想定する。
  - ③ コロナとICT：森嶋さん提示(コロナとICT関連 日経記事)の資料について
    - ・「教育」「テレワーク他」「高齢者とデジタル化・オンライン活用」「個人情報・情報操作など他」のテーマごとに、日経記事(2020.6~2021.5.17)の見出しを整理して説明。
    - ・研究会のアウトプットの下敷きとして使用できるのではないか。よく整理されていて、記事内容をテキストデータで保存し、分析ができるのではないか。(八巻・齋田・安田(和)他のコメント)
    - ・小5のお孫さんの学校で、タブレットを全員に配っている。そこで新たないじめやセキュリティに関係する問題が起きている→セキュリティ教育も必要である。(平井さんのコメント)
    - ・ICTとは少し距離を持ったスタンスを取る立場をとりたい。ICTが必ずしも人の幸せに結びつくものとは思わない。できる人とできない人との分断と格差が生じるのでは。(小平さんのコメント)  
(森 記)

#### (2) 第22回 「ライフプロデュース」研究会報告

- 1) 日 時：2021年6月29日(火曜日) 17:00~19:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) ファシリテーター 岡田慶子(臨床心理士) 他参加者5名 (群馬より新規参加者1名)

#### 4) テーマ： 10年後、20年後の自分 — 悔いのない最期を迎えるために— 人生の先輩から学ぶ生き方（逝き方）の極意（その2）

前回に引き続き、同じテーマについて話し合った。今回は更に進めて、参考図書として岡田から提示した『「在宅ホスピス」という仕組み』（山崎章郎著）の9章「スピリチュアルペイン」について、各自の意見、感想を発表していただいた。また、スピリチュアリティが発揮されるためには、「真に拠り所となる他者」が必要とあるが、各自にとっての「真の拠り所となるもの」とは何か、併せて発表していただいた。

最期をどのように迎えるかについては、誰しも「最後まで自分らしく」という思いがあり、それは共通の願いであるが、頑張る努力したからといって、望み通りの死に方ができる保証はない。厳しい現実を変えることができないのであれば、それをそのまま受け入れる、覚悟も必要である。それには痛みが伴うので何らかの支えが必要とされる。介護や看護を職業として選択して学んできた人たちに、プロとしてその役割を期待してもよいのではないかという意見もあった。また、現実をそのまま受け入れることについて、あきらめることと受容することとはどう違うのか、マインドフルネスに通じるものがある、など興味深い議論もあった。遺された家族の関係が悪くなったとしても、私には関係ないと思う、とすっぱり言い切る潔さと娘には介護離職は絶対しないようにと云ってあるとの発言もあり、このテーマの議論においては、これまで生きて積み重ねてきた、その人なりの価値観、人生観、いろいろなものが凝縮して表現されるのだと思った。（岡田慶子 記）

## 6. 事務局からのお願い

### <会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による会員情報変更等の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール: [jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

### <8月 JAAS News の発行日>

次回 JAAS News 第264号の発行日は、8月18日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、8月11日（水）までをお願いいたします。

### <緊急事態宣言中の事務所の開室について>

事務局は、「緊急事態宣言」発出を受け2021年8月31日（火）まで休室とします。その後は様子を見て開室日程をホームページにてお知らせします。その間、電話・FAX はご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、出来るかぎりeメールでお願いいたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/